

1. ~5. は検証済み。6. ~10. は未検証。

暴動評価基準は文末に掲示。

1. 6/12~22、広東省東莞市のシチズン中国工場で11日間の連続スト。 **暴動レベル0。**

- ・マスコミ情報 : 東莞市のシチズン時計の中国工場で、6/12から1週間以上、500人余(最高時)の従業員が、残業時間が長いことなどに抗議してストライキ。会社側が従業員側の要求を呑む形で決着。6/23午後から通常稼働。
- ・実情 : 東莞市長安鎮新星路5号のシチズンの中国工場の「東莞長安新新冠利精密針表場」で、6/12、従業員のストライキが起きた。従業員総数は2000人余で、ストライキ参加者は500人ほど。6/21時点では200人ほどに減った。ストの原因は、会社側が6/08(水)~10(金)の3日間、工場の冷房が故障したので休日とし、従業員に11(土)、12(日)の振り替え出勤を求めた。これに対して従業員側は、休日出勤の割増し手当を要求したが、会社側がそれを拒否したので、それまで溜まっていた不満が爆発しストライキに発展した。さらに従業員側は毎日の始業時間10分前に行われてきた強制朝礼にも言及し、その分を残業手当として過去に遡って支払えと要求。念のため地元政府は、工場の秩序を維持するため、300人の武装警察を出動させ待機させた。会社側は従業員側の要求をほぼ認める形で、ストライキを収束させた。会社側は全従業員に朝礼時の10分間の残業手当などを、過去に遡って支払うことになったため、数百万円の臨時出費となったようだ。
- ・私見 : 2008年に新労働契約法が施行されてから、労働争議が発生した場合、ほぼ経営者側が負けている。また地元政府は基本的に労働争議には介入しない方針である。さらに今回の例のように、今まで慣例として認められ大目に見られていたことでも、法律に照らして過去に遡って補償を求められるようになった。会社側はあいまいな労働条件をただちに是正し、労働者側のあらゆる面からの提訴に勝てるように準備しておかなければならなくなった。現在、中国では、このように会社内の力関係が労働者側にきわめて有利になってしまったことを嫌い、会社を閉鎖したり、工場を他国に移転させる経営者が激増している。また実業を避け、投機などの虚業で儲けようとする企業家が多くなっている。このままではやがて、中国から実業を行う経営者が消滅するのではないかと危惧されている。



2. 6/06、広東省潮州市で、賃金未払いに怒った出稼ぎ労働者が地元政府に抗議。 **暴動レベル2。**

- ・マスコミ情報 : 6/08、潮州市潮安県古巷鎮で、賃金未払いに関する傷害事件に怒った四川省からの出稼ぎ労働者200人余が地元政府を取り巻き抗議。自動車など19台を壊すなどの騒ぎに発展し、現場には1万人以上の労働者が集結した。
- ・実情 : 6/01、四川省からの出稼ぎ労働者が、勤務先の陶磁器工場の社長の家に約束の賃金を受け取りに行ったところ、社長が理由を付けて支払わなかったため、双方が口論となった。社長は外から刃物を持ったヤクザを2人連れてきて、労働者に切りつけさせたため、労働者は重傷を負った。その後、社長は姿を消してしまったので、四川省の出稼ぎ労働者仲間200人ほどが、連日、地元政府に抗議に行った。政府が明確な態度を示さないため、6/06、四川省の出稼ぎ労働者の組織の同郷会が1万人以上の労働者を糾合し、政府前の大通りで氣勢をあげ、パトカー3台を含む車10数台を壊し、地元の住民を殴ったりした。地元の商店は略奪破壊を恐れて店を閉じた。また地元住民は外出を控えた。地元住民たちは18~45歳の男性で自警団を組織して、四川省同郷会に対抗しようとしたという。潮安県政府は現場の秩序維持のため、武装警察3000人以上を出動させた。 《 暴動発生現場 》 →



3. 6/07~10、湖北省利川市で、市民数千人が住民擁護の地元幹部の変死に抗議。 **暴動レベル2。**

- ・マスコミ情報 : 6/07~10、利川市で市民数千人が、住民を擁護していた地元政府幹部が汚職の嫌疑で逮捕され、取り調べ中に変死したため、それに抗議し市政府前でデモを行った。中でも6/09の抗議デモは過激で、市政府前で武装警察と衝突し、住民数十人が負傷。事後、取り調べに当たっていた2人の検察官は拘束、検察長は辞任、共産党規律委員会書記は解任。 《 利川市人民政府庁舎 》 →
- ・実情 : 6/04、湖北省恩施州利川市の利川検察院で、都亭弁事処書記兼主任の冉建新氏が汚職容疑で取り調べ中に急死した。冉建新氏は住民の立場に立ち、利



川市政府の土地収用などに反対していたので、市政府に住民から賄賂を受けたという嫌疑をかけられ逮捕されていた。住民は検察院に死因の公表を求めて抗議をしたが、市政府側が明快な返答をしなかったため、抗議の規模が膨らんだ。6/09の午前中、抗議する住民は2000人以上になり、野次馬も含め1万人以上が市政府前の龍船大通りを塞ぎ、交通を麻痺させた。集まった住民は市政府庁舎に投石し窓ガラスを壊したり、門の字を削り取ったりした。6/09午後、市政府は秩序維持の名目で、武漢の武装警察5000人以上を36台のトラックで出動させ、威嚇のため戦車6台を投入し、住民を武力で強制的に排除した。そのとき住民130人が拘束され150人が負傷した。事後、市政府は抗議した住民からの要求や死亡した再建新氏の家族からの要望を全面的に受け入れ、取り調べに当たっていた2人の検察官は停職、検察長は辞任、共産党規律委員会書記の李偉を解任するなどして、事態の沈静化を図っている。 《 6/09当日の様子 ネットから》 →



4. 6/10～12、広東省増城市郊外の新塘鎮で数千人の出稼ぎ労働者が暴動。 **暴動レベル3。**

- ・マスコミ情報： 6/10～12、増城市郊外の新塘鎮の郊外で、四川省出身の出稼ぎ労働者が中心となって、3日間暴動が続いた。原因は6/10午後9時ごろ、新塘鎮大墩村の「農家楽」というスーパーの門前で、四川省出身の王聯梅さん(20歳)が露天を開いていたところ、村の管理者が来て違法露天として取り締まろうとしたので、口論となり王さんが殴られた。ちょうどそのとき王さんは妊娠していたので、近くにいた人たちが管理者の横暴に抗議し騒いだ。政府幹部は王さんをただちに病院に運び、事態を沈静化しようとしたが、四川省出身の出稼ぎ労働者や野次馬など1万人以上が集まり、管理者や警察にレンガやペットボトルを投げつけた。騒動は翌日3時ごろまで続き、暴徒は警察署や出稼ぎ労働者の管理事務所などに投石・放火、数十台の警察車両をひっくり返すなどして



《 破壊され修理中の保安隊事務所 》

騒いだ。一部では銀行のATMが襲われた。翌12日夜にも騒動が起きたので、市政府は武装警察7500人を出動させ、威嚇のため戦車なども投入し、催涙弾を使用するなどして事態の沈静化を図った。出稼ぎ労働者ら25人が拘束され、発砲による死者が出た模様。6/13、新塘鎮には夜間外出禁止令が出された。武装した警察官が10人1組となって、鎮内を巡邏。



《 壊されたATM 》

- ・実情： 増城市近郊は、中国随一のデニム生産基地であり、無数(1000社超)のモグリ工場(従業員20～30人規模)がそこに蝟集しており、大量の出稼ぎ労働者がそこに集中して働いている。最近、そのデニム工場群の景気が悪く、閉鎖する工場が激増していた。今回の暴動はそれらのデニム工場で働いていた四川省出身の労働者が中心であったという。四川省出身労働者たちには、四川同郷会と呼ばれる非公式の組織があり、今回の騒動はその組織がインターネットで抗議行動を呼びかけたという。当局は事件解決のため、その組織に協力を求めたようである。事件後、増城市公安局は19人の男を公務執行妨害などで逮捕、ネット上で暴動を扇動するデマを流したという理由で男1名を拘束。なお公安当局は6/19、容疑者の摘発に住民の密告の協力を得るため、その見返りとして「5千元から1万円の報奨金と、通報者が出稼ぎ者の場合は“増城市の戸籍”を与える」と発表した。さすがにこの戸籍授与の報奨は行き過ぎだということで、すぐに撤回された。現場付近は6月末でも緊張感がただよっており、監視役の私服警官が多いため、周辺での聞き込みはきわめて困難だった。

5. 6/18、広東省深圳市で、現役・退役軍人の家族ら約100人が住宅問題でデモ。 **暴動レベル0。**

- ・マスコミ情報： 6/18、広東省深圳市にある香港駐留部隊の後方支援基地で、部隊の現役・退役軍人の家族ら約100人が、住宅問題の解決を要求して抗議デモを行った。家族らは皇崗公園に集合し、福田区福強路の後方支援基地の門前までデモ行進をした。抗議参加者は香港駐屯の大隊・中隊クラスの退役または現役幹部の家族で、住宅が配給されていないことに抗議した。なお、連隊クラスの幹部将校には住宅が配給されている。 《 深圳市の後方支援基地 》 →



- ・実情： 抗議に参加していたのは、1993・94年に深圳後方基地に進駐していた大隊・中隊クラスの幹部将校の家族で、当初、深圳に進駐してきたときには住宅を提供するという約束があったという。

この問題を解決するために、2002年に深圳市政府は土地を駐留部隊に譲ったが、その土地に建設されたのは連隊クラスの幹部将校のものばかりで、しかもそれらは規定よりかなり大きいのに、下級将校の約200人には住宅が未配給であるという。なお、抗議した家族らは後方基地の事務所から出てきた兵士に解散させられ、そのときに数人の婦人が押し倒されケガをしたという。また軍はすべてが「退役軍人住宅保障弁法」に則り処理されていると発表しているが、そこには下級将校について住宅を配給するということは明記されていないようだ。

・私見：この事件は、軍幹部の住宅不正受給を明らかにしたもので、軍の内部にも汚職腐敗が充満し、上下の階層間で内部矛盾が存在していることを示している。

6. 6/01、湖南省岳陽市で民間自衛団が城管と対抗。 **暴動レベル0。**

・マスコミ情報：5月末、湖南省岳陽市で不動産やホテルなどを手がける民間企業の泰和集団が、自らの敷地内に違法建築を行ったということで、市政府から建物の撤去を命じられ、撤去しない場合は強制的に取り壊すと通告された。強制取り壊し実行の当日、泰和集団はヘルメットを被り、防弾チョッキを着て、盾と棍棒を手にした30数人の自警団を組織し、撤去作業に来た城管に対抗した。2時間ほどのにらみ合いの後、城管はなにも手出しをできず撤退した。

7. 6/06、江蘇省啓東市郊外の漁村で、土地収用・漁場汚染に住民約2000人が抗議。 **暴動レベル1。**

・マスコミ情報：江蘇省啓東市郊外の漁村で、海沿いの土地が埋め立てられて、発電所が建設された。そのとき土地が収用されたが、補償金の一部を地元政府幹部が着服し、住民には十分な補償金が支払われなかった。また発電所の影響により付近の海が汚染され、住民は養殖業が続けられなくなっていた。6/06、漁民が発電所の近くで漁をしていたところ、発電所の警備員に殴られたことから、住民の不満が爆発し、2000人規模の抗議行動に発展した。抗議は連日続き、6/10には地元政府が数百人の武装警察を出動させ、抗議者を解散させようとしたため衝突。住民10数人が逮捕、数人の負傷者が出た。

8. 6/09、浙江省紹興市楊汛橋鎮で、鉛中毒に村民1000人が抗議。 **暴動レベル0。**

・マスコミ情報：紹興市楊汛橋鎮で100人ほどの村民が鉛中毒となっており、汚染源の疑いのある錫箔工場の撤去を求めて村民約1000人が地元政府に抗議。

9. 6/17、広東省河源市紫金県で、鉛中毒で入院中の児童の退院強要に、住民1000人が抗議。 **暴動レベル1。**

・マスコミ報道：広東省河源市紫金県臨江鎮の三威バッテリー製造工場の近辺では、同工場から排出される汚染水などで、多くの住民の血中鉛濃度が基準値を超えていることが判明。中には200人余の児童も含まれており、入院治療中であった。6/17、地元政府がこれらの児童に強制退院を迫ったため、1000人余の住民たちが近くの国道を封鎖し抗議。地元政府の職員が退院を拒む母親らに暴力を振るったため、さらに多くの住民が集まり、抗議を行った。地元政府は夜9時ごろ、武装警察200人ほどを出動させ、警棒を振るい住民たちを解散させた。

10. 6/20、広東省広州市の韓国系ハンドバッグ工場で、賃上げで4000人の従業員スト。 **暴動レベル0。**

・マスコミ情報：6/20、広州市郊外にある韓国系ハンドバッグ製造会社の「世門手袋」の工場で、賃上げなどの待遇改善を求めて、4000人以上の従業員がストライキに突入。工場周辺には警察が待機。従業員側は賃金を現行の1100元から1300元へのアップを求めると同時に、トイレ休憩などの労働条件の改善、社会保険費の給料からの天引き中止、食堂の食事の改善、工場内への携帯電話の持ち込みの不許可の撤回などを要求している。

《私の暴動評価基準》

暴動レベル0：抗議行動のみ 破壊なし

暴動レベル1：破壊活動を含む抗議行動 100人以下(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル2：破壊活動を含む抗議行動 100人以上(野次馬を除く) 破壊対象は政府関係のみ

暴動レベル3：破壊活動を含む抗議行動 一般商店への略奪暴行を含む

暴動レベル4：偶発的殺人を伴った破壊活動

暴動レベル5：テロなど計画的殺人および大量破壊活動

以上